

Cover Presentation

松本 大

Text by MATSUMOTO Dai

建築家
都市環境マネジメント研究所 研究員
松本大建築設計事務所 代表

名建築家、村野藤吾の貴重な初期作品 金沢の「都市の重層性」を体現する一級建築



Photographs by MIZUNO Naoki

北國銀行 武蔵ヶ辻支店 (金沢市)

金

沢市で近江町の「再整備」が進んでいる。日本芸術院会員でもあった建築家、村野藤吾の設計によるこの建物は、金沢駅からの軸線を受けるランドマークとなる場所に建ち続け、再開発ビルと一体となつて活用、保存されていくことになった。一階において銀行の窓口業務は続けられるが、カフェが併設され、施設全体のエンタランス的色彩が付与される。上階の講堂であった部分は銀行全体の歴史を紹介するスペースとなるらしい。市民に開かれ、親しまれる施設となることを期待したい。

再開発ビル全体が、この建物を取

り込んで計画されたことは評価される。評価すべきことは、すなわち、落ち着いた色調のメッキ鋼板の外装からなる新たな再開発ビルと、この建物が一体となることによって、「都市の重層性」を指し示す建物に再生されたことである。つまり「建物は人々にとって、時代の記憶そのものであり、記憶としての建物が街のあちこちに残り、埋め込まれ、街に連綿と流れる時の流れを現在において体感することが可能になる(※1)」のである。

この建物を単体として眺めるときも、「重層性」を体現した建物であることに気づく。建物の性格は正面立面の三個のシェルアーチに特徴づけられるドイツ表現派風だが、プレキャストコンクリートのデザインパネルやバウハウス風のペントハウスやカーテンウォールなど、モダニズム前後の様々な様式をパッチワークしている。これは村野が若き日に世に問うた論文「様式の上にあれ(※2)」の表題のとおり(モダニズムの



マニエリスティックなものになりやすい(※3)が、村野の作品はそうなることを免れている。それは村野の「ヒューマニティ」への確固たる信奉があったためではないかと思う。

ここに村野と画家
東山魁夷との対談を引
用する。

東山 (略) 先生の作品に一貫して流れているものはヒューマニズムですね。人間にたいする温かさ、心のかよいあい……。

村野 (略) やはり反近代的とまではいきませんが、近代にたいする疑問、近代の産業にたいする疑問みたいなものがあるわけです。

(中略)

東山 先生の建築の場合、外の壁は大変表情を持っているものなんです。ね。広島の平和記念カトリック聖堂の壁もそうです。

村野 いつも全部そうとはいきませんけれども、日生の壁も広島の建築にしても、私は表面がつるつるした壁はあまり好きじゃないのです。ラ

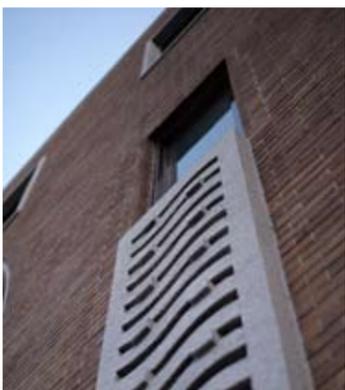
フな外にかけのある、これが非常に好きなんです。(略)(※4)

今回、改装中の内部に入る機会を得た。外装のタイルが内部のホールの壁面も飾っている。タイルに触れてみた。手焼きでテラコッタのようなざらざらした手触りと色、ポーラスな質感がとても新鮮だった。外から見ていたときは、少し固く感じられた建物が柔らかく、親しみのあるものを感じられた。マテリアルを通して、村野の建物に対する想いが伝わってくる。

村野の建築が近年、再評価される機運にある。展覧会(※5)やシンポジウム(※6)も開かれていて、近代というものをじっくり振り返ることができ、この時代に村野の建築が時代を振り返る道しるべになるように思う。現存が少ない村野の初期二作品(※7)を有する金沢は、今後高く評価されるであろうし、また文化財指定を含めての保存が望まれる。村野の建築を読み解くキーとなる「重層性」「ヒューマニティ」は近代を振り返るこの時代に益々その存在感を深めていくであろう「金沢」にとってのキーワードでもあるように思われるのだ。●

メモ 北國銀行武蔵ヶ辻支店

昭和7年(一九三二)に加能合同銀行本店として建てられた。鉄筋コンクリート造、3階建。昭和18年、33年は北國銀行本店が置かれた。設計は日本を代表する建築家、日本芸術院会員、村野藤吾(一九〇一—一九八四)。彼の独立直後の作品である。外観を特徴づける印象的な砲弾型のアーチはドイツ表現派の影響を色濃く残す。これにプレキャストコンクリートのルーバーやバウハウス風のペントハウス、カーテンウォールなど当時の様々な技法を自由に駆使し、独自の表現を完成している。近隣に同年、村野により完成した中島商店ビルと合わせて、初期の村野建築の現存地として金沢が今後高く評価されていくことが予想される。



※1 学都vol.25 表紙プレゼンテーション「三田商店」
※2 「日本建築協会雑誌」(大正8年) 村野藤吾著 集鹿島出版会より
※3 孤高の建築家 白井晟一(1905-1983)が想起される。
※4 「自然との調和が大切」(日本経済新聞 昭和57年1月17日 東山魁夷との対談) 村野藤吾著 鹿島出版会より
※5 「村野藤吾 建築とインテリア」汐留Panasonicミュージアム2008.8.2~10.26
※6 シンポジウム村野藤吾・人と建築2005、2006、2007、2008 4回開催(2009 5回目を開催予定) <http://www.togomurano.com>
※7 中島商店ビル(1932)も村野の作品。中島徳太郎が建設中の加能合同銀行本店を気に入り設計を依頼した。